



PUBLIC (公開)

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム
ドキュメントバージョン: 4.3 Support Package 4 – 2023-12-07

OpenDocument によるドキュメントの表示

目次

1	Document History	4
2	はじめに.....	5
2.1	このドキュメントについて.....	5
2.2	このドキュメントの対象者.....	5
2.3	OpenDocument について.....	5
3	OpenDocument 構文	7
3.1	基本的な URL 構文.....	7
3.2	URL 構文に関する考慮事項.....	7
3.3	通知.....	9
4	OpenDocument リンクを介するコンテンツオブジェクトの表示	10
5	セッション管理	11
5.1	シリアルizedセッション.....	11
5.2	ログオントークン.....	12
5.3	ユーザセッション.....	13
6	パラメータリファレンス	14
6.1	セッション管理パラメータ.....	15
	serSes.....	15
	token.....	16
6.2	ドキュメントの ID パラメータ.....	18
	iDocID.....	18
	sDocName.....	19
	sIDType.....	19
	sInstance.....	20
6.3	入力パラメータ.....	20
	lsC[NAME] - コンテキスト変数.....	20
	lsI[NAME] - インデックス.....	21
	lsM[NAME] - 複数の値変数.....	22
	lsR[NAME] - 範囲プロンプト.....	23
	lsS[NAME] - 単一プロンプト.....	24
	sRefresh.....	24
	sReportName.....	25
6.4	出力パラメータ.....	25
	NAII.....	25

	sOutputFormat.	27
	noDocument.	27
6.5	製品固有のパラメータまたは使用方法.	28
	Analysis, edition for OLAP.	28
	Crystal Reports.	33
	Web Intelligence.	40
	Design Studio.	48
	eView と情報スペース.	48

1 Document History

The following table provides an overview of the most important document changes.

Version	Date	Description
SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform 4.3 SP4	December 2023	New Web Intelligence parameter to pass cp[NAME] - カスタムプロパティ値 [page 47] .
SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform 4.3 SP2	December 2021	Updated the sOutputFormat [page 37] Crystal Reports specific parameter in the parameter reference, under <i>Product specific parameters or usage > Crystal Reports</i> section.
SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform 4.3 SP1	December 2020	Updated the NAII [page 25] Web Intelligence specific parameter in the parameter reference, under the <i>Product specific parameters or usage > Web Intelligence</i> section.
SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform 4.3	June 2020	Updated the Web Intelligence specific parameters in the parameter reference, under the <i>Product specific parameters or usage > Web Intelligence</i> section.

2 はじめに

2.1 このドキュメントについて

このドキュメントは、OpenDocument 構文を使用するパラメータ付き URL の作成に関する情報を提供します。OpenDocument URL は、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムのビジネスインテリジェント (BI) ドキュメントにリンクします。OpenDocument URL パラメータごとに、構文と使用例を含むパラメータリファレンスが用意されています。

BI platform のインストール後に OpenDocument Web アプリケーションをデプロイする方法については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Web アプリケーションデプロイメントガイド*を参照してください。

2.2 このドキュメントの対象者

このドキュメントは、OpenDocument 構文を使用して BI ドキュメントの URL を作成するユーザを対象とします。次の作業を行うユーザは、このガイドを参照することをお勧めします。

- 電子メールなどの直接的方法によってドキュメントへのハイパーリンクをエンドユーザに提供する。
- ドキュメントへのハイパーリンクを別のドキュメントに埋め込む。
- カスタムアプリケーションでプログラムによってドキュメントへのハイパーリンクを生成する。

BI platform デプロイメントでのオブジェクトの管理と構成に関する知識があると役立ちます。

2.3 OpenDocument について

OpenDocument は、BI platform インストール内にデプロイされる多くの Web アプリケーションの1つです。ドキュメントなどの表示可能なオブジェクトタイプの着信 URL 要求を Central Management Server (CMS) で処理し、正しいドキュメントをエンドユーザの適切なビューアに提供します。これにより、ドキュメントへの直接リンクをユーザに送信できるため、ユーザは BI 起動パッドなどでフォルダ階層内を移動する必要がありません。OpenDocument 構文とそのパラメータを使用して、これらのドキュメントにリンクする URL を作成できます。たとえば、次の URL を考えてみます。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?  
iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID
```

① 注記

<servername>:<port> を、OpenDocument がデプロイされる Web サーバの名前とポート番号に置き換えます。

この URL は、Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI という CUID 値を持つ CMS 内のオブジェクトにアクセスします。たとえば、このオブジェクトが Crystal レポートの場合は、ユーザのデフォルトの SAP Crystal Reports Viewer にレポートが表示されます。この例の iDocID は、多くの URL パラメータの 1 つです。これらのパラメータは、CMS 内の特定のドキュメントにアクセスする方法を指定したり、ユーザにドキュメントを表示する方法を決定します。

OpenDocument 構文を使用して、表示可能なさまざまなオブジェクトタイプにリンクできます。次の例があります。

- Crystal レポート
- Web Intelligence ドキュメント
- Analysis ワークスペース
- BI 起動パッドワークスペース
- Dashboards オブジェクト（旧称 Xcelsius）

これらの種類の BI ドキュメントに使用されるデザイナーのいくつかには、ドキュメントに openDocument URL を埋め込む際に役立つ GUI ベースの URL ビルダが用意されています。これらの機能については、各製品のドキュメントを参照してください。

3 OpenDocument 構文

3.1 基本的な URL 構文

OpenDocument URL の基本的な構文は、次のとおりです。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/<platformSpecific>
?<parameter1>
&<parameter2>
&...
&<parameterN>
```

SAP BusinessObjects Enterprise デプロイメントに従って、次のように <platformSpecific> を置換します。

- Java デプロイメントの場合は、`openDocument.jsp` を使用します。
- .NET デプロイメントの場合は、`opendocument.aspx` を使用します。

① 注記

- 変数は山カッコで示しています。これらの変数を適切な値に置き換えてください。
 - たとえば、OpenDocument Web アプリケーションにアクセスするには、<servername> に OpenDocument がホストされている BI platform サーバの名前を使用し、<port> に正しいポート番号を使用する必要があります。
- 既存の BI プラットフォームで、SSO が `http://<サーバ>:<ポート>/BOE/OpenDocument/logonNoSso.jsp?<サポートされるパラメータ>` で設定されている場合、手動ログオンに `LogonNoSSO.jsp` が使用されます。
- OpenDoc リンクを BI ラウンチパッドから直接コピーすることができます。

3.2 URL 構文に関する考慮事項

ドキュメントへのアクセス

表示するドキュメントを指定するには、OpenDocument URL に `iDocID` パラメータまたは `sDocName` パラメータを含める必要があります。Central Management Server (CMS) に同じ名前のドキュメントが複数存在する場合や、ドキュメントが移動されたり名前が変更される場合があるため、各ドキュメントが一意になるように `iDocID` を使用することをお勧めします。

パラメータの結合

パラメータはアンパサンド (&) で結合します。アンパサンドの前後にスペースを入れないでください。たとえば、sType=wid&sDocName=Sales2003 です。

パラメータとパラメータの間には必ずアンパサンドが必要です。

パラメータ値内のスペースと特殊文字

ブラウザによってはスペースを解釈できない場合があるため、URL エンコードが必要な特殊文字やスペースをリンクのパラメータに入れることはできません。特殊文字が誤って解釈されないようにするには、特殊文字をエスケープシーケンスに置換するために、ソースデータベースで URL エンコード文字列を定義します。これにより、データベースは特殊文字を無視し、パラメータ値を正しく解釈できます。RDBMS によっては、ある特殊文字を別の特殊文字に置換する機能があります。

プラス記号 (+) のエスケープシーケンスを作成することで、プラス記号をスペースとして解釈するようにデータベースに指示できます。この場合、「Sales Report for 2003」というドキュメントタイトルは、DocName パラメータで &sDocName=Sales+Report+for+2003& のように指定します。

この構文により、データベースがタイトル内のスペースを誤って解釈しなくなります。

また、シリアルizedセッション (serSes パラメータを使用) およびログオントークン (token パラメータを使用) の値は、OpenDocument URL 文字列に渡す前に、アプリケーションで URL エンコードする必要があります。

パラメータ値の末尾のスペース

パラメータ値やプロンプト名の末尾のスペースは削除します。このようなスペースをプラス記号 (+) で置き換えないでください。そうしないと、プラス記号 (+) をプロンプト名の一部として解釈するか、スペースとして解釈するかをビューアが判断できない場合があります。たとえば、次のようなプロンプト名を考えます。

```
Select a City: _
```

この _ はスペースを表します。この場合、リンクには、次のようなテキストを入力します。

```
lsSSelect+a+City:=Paris
```

プロンプト名内のスペースはプラス記号に置き換え、末尾のスペースは削除しました。

大文字と小文字

OpenDocument のすべてのパラメータとパラメータ値は、大文字と小文字が区別されます。

URL の長さの制限

OpenDocument は、要求されたドキュメントにリダイレクトする際に URL に文字を追加することがあります。ただし、エンコードされた URL が、サポートされているブラウザの最大文字数の制限を超えることはできません。たとえば、Internet Explorer の一部のバージョンでは、URL の長さが 2083 文字に制限されています。したがって、ブラウザの文字制限を確認し、URL が最大文字数の範囲内に収まるようにしてください。

サブレポートへのリンク内のパラメータ値

ターゲット Crystal レポートのサブレポートにパラメータ値を渡すことはできません。

新しいウィンドウを開く

OpenDocument HTML リンクで新しいブラウザウィンドウを開くには、HTML アンカーの `target` 属性などを使用します。以下はその例です。

```
<a href="http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/<platformSpecific>?
      iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
      &sIDType=CUID"
  target="_blank">hyperlink text</a>
```

3.3 通知

OpenDocument ユーザに対し、管理者が通知をプッシュすることが可能になりました。ユーザが [OpenDoc リンク](#) を開くと、これらの通知が表示されます。通知は一括で閉じることも、1つずつ閉じることもできます。

4 OpenDocument リンクを介するコンテンツオブジェクトの表示

OpenDocument リンクでは、コンテンツオブジェクトへの直接リンクを利用できるため、受信者はフォルダまたはカテゴリ間を移動する必要がありません。

受信者が OpenDocument リンクを介してドキュメントを表示するには、ドキュメントへのアクセス権を持つ必要があります。

受信者がブラウザで OpenDocument リンクにアクセスすると、BI ラUNCHパッドセッションがアクティブな場合、ログオンダイアログボックスは表示されません。OpenDocument によって既存の BI ラUNCHパッドセッションが使用され、ドキュメントが開かれます。セッションがアクティブでない場合、BI ラUNCHパッドのログオンダイアログボックスが表示されます。受信者が有効なログオン認証情報を入力すると、ドキュメントが開きます。

OpenDocument セッションのタイムアウトが近づくと、[セッションタイムアウトの警告] ダイアログボックスが次の警告メッセージとともに表示されます。[ユーザセッションが "N" 分後に切れます。ユーザセッションを継続しますか?]。受信者が [継続] をクリックすると、セッションは次の "N" 分間アクティブになります。"N" とはセッションタイムアウトの値です。

セッションがタイムアウトすると、[セッションタイムアウト] ダイアログボックスが次の警告メッセージとともに表示されます。[セッションの期限が切れています。ブラウザウィンドウを閉じて、アプリケーションを再起動してください。]。ドキュメントの表示を続行するには、受信者はブラウザウィンドウを閉じて、ブラウザの OpenDocument リンクに再アクセスする必要があります。

5 セッション管理

通常、OpenDocument リンクを使用して BI プラットフォーム内のセキュリティで保護されたドキュメントにアクセスする場合、ユーザは認証情報を要求されます。ユーザ名とパスワードの情報を入力しなくても済むように、OpenDocument には 2 つのパラメータが用意されています。OpenDocument URL にシリアライズセッションまたはログオントークンのいずれかを直接挿入できます。これにより、ドキュメントにアクセス可能な期間を制御できます。OpenDocument URL は、さまざまな言語に設定できます。

5.1 シリアライズセッション

OpenDocument では、OpenDocument URL に `serSes` パラメータを挿入することで、シリアライズセッションを使用できます。これにより、ユーザは認証情報を要求されることなくファイルにアクセスできます。シリアライズセッションを作成しても、追加のライセンスは使用されません。元のユーザのセッションがタイムアウトになるか、ログオフすると、シリアライズセッションが期限切れになります。

例

次の例は、BI platform Java SDK を使用して、OpenDocument URL にシリアライズセッションを渡します。`IEnterpriseSession.getSerializedSession` メソッドの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Java API* リファレンスを参照してください。

```
String openDocumentSerSes() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().login
    ( "username",
      "password",
      "<cms>:<port>",
      "secEnterprise");
    String serSession = sess.getSerializedSession();
    String serSesEncode = URLEncoder.encode(serSession, "UTF-8");
    return
        "?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
        &sIDType=CUID
        &serSes=" + serSesEncode
    );
}
```

① 注記

- `<server>:<port>` を Web サーバのサーバ名とポート番号に置き換えます。
- `<cms>:<port>` を Central Management Server (CMS) の名前とポート番号に置き換えます。
- シリアライズセッションは URL エンコードする必要があります。
- シリアライズセッションを使用する OpenDocument URL にはユーザセッションが含まれるため、セキュリティの理由から、これを共有してはなりません。

5.2 ログオントークン

OpenDocument では、OpenDocument URL に token パラメータを挿入することで、ログオントークンを使用できます。ログオントークンを使用すると、ユーザに認証情報を要求しなくても、BI プラットフォーム内のセキュリティで保護されたファイルへのアクセスを提供できます。同時に、ファイルにアクセス可能な期間を制御することもできます。新しいログオントークンを作成すると、1つの追加ライセンスが使用されます。

例: BI platform Java SDK の使用

次の例は、BI platform Java SDK を使用して、OpenDocument URL にログオントークンを渡します。ILogonTokenMgr.createLogonToken メソッドの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Java API* リファレンスを参照してください。

```
String openDocumentToken() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().logon
    ( "username",
      "password",
      "<cms>:</port>",
      "secEnterprise"
    );
    String token = sess.getLogonTokenMgr().createLogonToken
    ( " ",
      120,
      100
    );
    String tokenEncode = URLEncoder.encode
    ( token,
      "UTF-8"
    );
    sess.logout();
    return
    ( "http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
      ?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
      &sIDType=CUID
      &token=" + tokenEncode);
}
```

① 注記

- <server>:<port> を Web サーバのサーバ名とポート番号に置き換えます。
- <cms>:<port> を Central Management Server (CMS) の名前とポート番号に置き換えます。
- createLogonToken メソッドを使用すると、トークンを使用できるコンピュータ (任意のユーザにトークンの使用を許可する場合は空に設定)、トークンが有効な分数、およびトークンを使用できるログオン数をパラメータとして指定できます。新しく作成されるログオントークンは別のセッションを使用するため、元のセッションをログオフするために sess.logout() を呼び出します。
- ログオントークンを使用する OpenDocument URL にはユーザセッションが含まれるため、セキュリティの理由から、これを共有してはなりません。

例: BI platform RESTful Web サービス SDK の使用

次の例は、BI platform RESTful Web サービス SDK を使用して取得したトークンを OpenDocument URL に渡します。詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence platform RESTful Web サービス開発者ガイド*を参照してください。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=<documentID>
&sIDType=CUID
&token=<logonToken>
```

① 注記

- URL エンコードしたログオントークンは、文字数が多くなることがあります。一部の Web ブラウザーでは、URL の文字数が制限されます。
- <server>:<port> を Web サーバのサーバ名とポート番号に置き換えます。
- <documentID> を、取得するドキュメントの ID に置き換えます。
- <logonToken> を、BI platform RESTful Web サービスを使用して取得した URL エンコードのログオントークン値に置き換えます。

5.3 ユーザセッション

BI 起動パッドまたは CMC から使用される OpenDocument は現在のユーザセッションにアクセスするため、ユーザは認証情報を入力する必要がありません。OpenDocument URL を使用してドキュメントを表示すると、次の場合を除き、ユーザは認証情報を要求されます。

- デプロイされた OpenDocument Web アプリケーションに Vintela または Siteminder SSO が設定されている場合。
- OpenDocument URL が serSes パラメータまたは token パラメータを使用している場合。
- OpenDocument アプリケーションがそのブラウザセッションに対応する既存のユーザセッションを持っている場合。

既存のセッションが serSes パラメータまたは token パラメータ内のセッションと異なる場合は、既存のセッションが閉じられ、新しいセッションが作成されます。つまり、serSes パラメータまたは token パラメータを使用して、既存のユーザセッションを上書きできます。OpenDocument アプリケーションは、Web アプリケーションセッション内とクッキー内で既存のユーザセッションを探します。

① 注記

- 1つのブラウザセッションからは、1つの OpenDocument セッションだけを作成できます。
- ユーザがブラウザを閉じると、ユーザセッションがリリースされます。

新しい serSes パラメータまたは token パラメータが正しくなく、既存のユーザセッションがある場合、OpenDocument は現在のユーザセッションを使用してドキュメントを開こうとします。開くことができない場合は、ユーザに認証情報を要求します。

6 パラメータリファレンス

このセクションは、使用できる OpenDocument パラメータの詳細、その固有の使用方法、および使用例を提供します。

① 注記

OpenDocument リンクがポイントするドキュメントは、ターゲット ドキュメントと呼ばれます。

セッション管理パラメータ

パラメータ	説明
serSes [15 ページ]	有効なシリアルライズ Enterprise セッションを指定します。
token [16 ページ]	現在の Enterprise セッションの有効なログオントークンを指定します。

ドキュメントの ID パラメータ

パラメータ	説明
iDocID [18 ページ]	CMS 内の表示可能なドキュメントの一意の識別子を指定します。 sIDType と共に使用します。
sDocName [19 ページ]	CMS 内の表示可能なドキュメントの名前を指定します。
sIDType [19 ページ]	表示可能なドキュメントの指定に使用するオブジェクト識別子のタイプを指定します。iDocID と共に使用します。
sInstance [20 ページ]	開くターゲットドキュメントのスケジュールされたインスタンスを指定します。sDocName または iDocID と共に使用します。

入力パラメータ

パラメータ	説明
IsC[NAME] - コンテキスト変数 [20 ページ]	SQL の生成時にあいまいさが発生する場合に、Web Intelligence ドキュメントを選択するためのコンテキストプロンプトを指定します。
IsI[NAME] - インデックス [21 ページ]	プロンプトのインデックスまたはキー値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。
IsM[NAME] - 複数の値変数 [22 ページ]	プロンプトの複数の値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。
IsR[NAME] - 範囲プロンプト [23 ページ]	プロンプトの範囲値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。
IsS[NAME] - 単一プロンプト [24 ページ]	1 つのプロンプトの値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。

パラメータ	説明
sPartContext [34 ページ]	Crystal レポート部分のデータコンテキストを指定します。 sReportPart とともに使用します。
sRefresh [24 ページ]	ターゲットドキュメントを開いたときにデータベースを強制的に最新表示するかどうかを示します。
sReportMode [35 ページ]	このリンクでターゲットの Crystal レポート全体を開くか、指定されたレポートパーツだけを開くかを示します。
	ターゲットドキュメントに複数のレポートが含まれる場合に、開くレポートを指定します。
sReportPart [36 ページ] (Crystal Report) / sReportPart [41 ページ] (Web Intelligence)	開くターゲット Crystal レポートまたは Web Intelligence レポートのパーツを指定します。
出力パラメータ	
パラメータ	説明
sOutputFormat [37 ページ] (Crystal Reports) / sOutputFormat [41 ページ] (Web Intelligence)	ターゲットドキュメントを開く形式を指定します。
sViewer [36 ページ] (Crystal Reports) / sViewer [42 ページ] (Web Intelligence)	選択されたレポートビューアを指定します。

6.1 セッション管理パラメータ

6.1.1 serSes

構文	説明	値
serSes	有効なシリアル化 Enterprise セッションを指定します。	現在の Enterprise セッションを表すシリアル化文字列。

現在のユーザセッションのシリアル化セッションが含まれます。ユーザが認証情報を要求されことなくファイルにアクセスできるように、この情報を OpenDocument URL に含めることができます。シリアル化セッションを作成しても、追加のライセンスは使用されません。元のユーザのセッションがタイムアウトになるか、ログオフすると、シリアル化セッションが期限切れになります。

例

次の例は、BI platform Java SDK を使用して、OpenDocument URL にシリアル化セッションを渡します。
IEnterpriseSession.getSerializedSession メソッドの詳細については、*SAP BusinessObjects Business*

Intelligence platform Java API リファレンスを参照してください。 .NET や Web サービスなどの他の BI platform SDK を使用しても、同様の方法でシリアル化セッションを取得できます。

```
String openDocumentSerSes() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().logon
    ( "username",
      "password",
      "<cms>:<port>",
      "secEnterprise"
    );
    String serSession = sess.getSerializedSession();
    String serSesEncode = URLEncoder.encode
    ( serSession,
      "UTF-8"
    );
    return
    ( "http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
      ?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
      &sIDType=CUID
      &serSes=" + serSesEncode
    );
}
```

① 注記

- **<server>:<port>** を Web サーバのサーバ名とポート番号に置き換えます。
- **<cms>:<port>** を Central Management Server (CMS) の名前とポート番号に置き換えます。
- シリアル化セッションは URL エンコードする必要があります。
- シリアル化セッションを使用する OpenDocument URL にはユーザセッションが含まれるため、セキュリティの理由から、これを共有してはなりません。

6.1.2 token

構文	説明	値
token	現在の Enterprise セッションの有効なログオントークンを指定します。	現在の Enterprise セッションのログオントークン。

現在のユーザのログオントークンが含まれます。ユーザが認証情報を要求されることなくファイルにアクセスできるように、この情報を OpenDocument URL に含めることができます。新しいログオントークンを作成すると、1つの追加ライセンスが使用されます。

例: BI platform Java SDK の使用

次の例は、BI platform Java SDK を使用して、OpenDocument URL にログオントークンを渡します。
ILogonTokenMgr.createLogonToken メソッドの詳細については、*SAP BusinessObjects Business*

Intelligence platform Java API リファレンスを参照してください。 .NET や Web サービスなどの他の BI platform SDK を使用しても、同様の方法でログオントークンを作成できます。

```
String openDocumentToken() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().logon
    ( "username",
      "password",
      "<cms>:<port>",
      "secEnterprise"
    );
    String token = sess.getLogonTokenMgr().createLogonToken
    ( "",
      120,
      100
    );
    String tokenEncode = URLEncoder.encode
    ( token,
      "UTF-8"
    );
    return
    ( "http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
      ?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
      &sIDType=CUID
      &token=" + tokenEncode
    );
}
```

① 注記

- **<server>:<port>** を Web サーバのサーバ名とポート番号に置き換えます。
- **<cms>:<port>** を Central Management Server (CMS) の名前とポート番号に置き換えます。
- createLogonToken メソッドを使用すると、トークンを使用できるコンピュータ (任意のユーザにトークンの使用を許可する場合は空に設定)、トークンが有効な分数、およびトークンを使用できるログオン数をパラメータとして指定できます。
- ログオントークンを使用する OpenDocument URL にはユーザセッションが含まれるため、セキュリティの理由から、これを共有してはなりません。

例: BI platform RESTful Web サービス SDK の使用

次の例は、BI platform RESTful Web サービス SDK を使用して取得したトークンを OpenDocument URL に渡します。詳細については、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform RESTful Web サービス開発者ガイドを参照してください。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=<documentID>
&sIDType=CUID
&token=<logonToken>
```

① 注記

- URL エンコードしたログオントークンは、文字数が多くなることがあります。一部の Web ブラウザーでは、URL の文字数が制限されます。
- **<server>:<port>** を Web サーバのサーバ名とポート番号に置き換えます。

- <documentID> を、取得するドキュメントの ID に置き換えます。
- <logonToken> を、BI platform RESTful Web サービスを使用して取得した URL エンコードのログオントークン値に置き換えます。

6.2 ドキュメントの ID パラメータ

6.2.1 iDocID

構文	説明	値
iDocID	CMS 内の表示可能なドキュメントの一意の識別子を指定します。sIDType と共に使用します。	CMS 内のドキュメントに関連付けられた数値識別子。

表示するドキュメントを指定するには、OpenDocument URL に iDocID パラメータまたは sDocName パラメータを含める必要があります。CMS には同じ名前のドキュメントが複数存在する場合がありますため、各ドキュメントが一意になるように iDocID を使用することをお勧めします。

ドキュメントの識別子の値は、セントラル管理コンソール（CMC）または BI 起動パッドアプリケーション内で確認できます。各ドキュメントのプロパティページにドキュメント ID と CUID があります。BI platform SDK を使用して、プログラムから識別子を取得することもできます。たとえば、Java SDK の `com.crystaldecisions.sdk.occa.infostore.IInfoObject` インタフェースには、OpenDocument URL を渡すことができる `getID` メソッドと `getCUID` メソッドが含まれています。

① 注記

CUID ではなく InfoObject ID を渡す場合、sIDType パラメータを指定する必要はありません。ただし、CMS 内のドキュメントを別の CMS に移行する場合は、それらの InfoObject ID が変更されます。移行時にも維持される CUID を使用することをお勧めします。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=2010
```

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
```

6.2.2 sDocName

構文	説明	値
sDocName	CMS 内の表示可能なドキュメントの名前を指定します。	CMS 内のドキュメントのタイトル。

表示するドキュメントを指定するには、OpenDocument URL に iDocID パラメータまたは sDocName パラメータを含める必要があります。CMS に同じ名前のドキュメントが複数存在する場合や、ドキュメントが移動されたり名前が変更される場合があるため、各ドキュメントが一意になるように iDocID を使用することをお勧めします。

① 注記

sDocName は、ローカライズされたドキュメント名の使用をサポートしていません。sDocName を使用して CMS 内に保存されている正しいドキュメント名を参照するレガシードキュメントは引き続き機能します。ただし、代わりに iDocID パラメータを使用することをお勧めします。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?sDocName=Sales+in+2003
```

6.2.3 sIDType

構文	説明	値
sIDType	表示可能なドキュメントの指定に使用するオブジェクト識別子のタイプを指定します。iDocID と共に使用します。	<ul style="list-style-type: none">InfoObjectIDParentIDCUID

① 注記

iDocID の値として CUID ではなく InfoObject ID を渡す場合、sIDType パラメータを指定する必要はありません。ただし、CMS 内のドキュメントを別の CMS に移行する場合は、それらの InfoObject ID が変更されます。移行時にも維持される CUID を使用することをお勧めします。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
```

6.2.4 sInstance

構文	説明	値
sInstance	開くターゲットドキュメントのスケジュールされた (スケジュール時に作成された) インスタンスを指定します。sDocName または iDocID と共に使用します。	<ul style="list-style-type: none">• User (現在のユーザが所有する最新のインスタンス)• Last (ドキュメントの最新のインスタンス)• Param (パラメータ値が一致するドキュメントの最新のインスタンス。Crystal レポートおよび Web Intelligence ドキュメントのみ。)

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?sDocName=Sales+in+2003
&sInstance=User
```

6.3 入力パラメータ

6.3.1 lsc[NAME] - コンテキスト変数

lsc パラメータにより、コンテキスト変数値の定義時における異なる演算子の使用が指定されます。異なる条件を区切るため、セミコロンが使用されます。

構文	説明	値
lsc[NAME]	SQL の生成時にあいまいさが発生する場合のコンテキストプロンプトを指定します。	SQL の生成時のあいまいさを解決するプロンプト値。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?  
iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI  
&sIDType=CUID  
&lsC=Sales
```

6.3.2 lsI[NAME] - インデックス

lsI パラメータにより、インデックスまたはキー値の使用が指定されます。

構文	説明	値
lsI[NAME]	インデックスまたはキー値を指定します。 このパラメータは、パラメータ lsS[NAME] - 単一プロンプト [24 ページ] 、 lsM[NAME] - 複数の値変数 [22 ページ] 、 lsR[NAME] - 範囲プロンプト [23 ページ] のうちいずれかと関連付けられる必要があ ります。	値は、プロンプトタイプ [prompt name]=[caption] か、Webi レポートの場合 は [prompt name]=[key/index] に従って、 単純 [S]、複数 [M] または範囲 [R] になり ます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp  
?sDoc=IndexTest  
&sType=wid  
&lsMStore=[caption]  
&lsIStore=[index]
```

例

eFashion サンプルユニバースを使用して、インデックス対応に変更された "Store name" オブジェクトの値と、"Store name" オブジェクトのインデックス値を以下のように渡します。

```
http://localhost:8080/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp  
?sDoc=IndexTest  
&sType=wid  
&lsMStore=e-Fashion New York Magnolia  
&lsIStore=2
```

例

キー日付などのインデックス値を提供する `lsI` パラメータ。パラメータは、BEx Query Designer の設定に従い、変数の技術名称を使用して渡されます。URL エンコードが必要であることに注意してください。

下の例では、データ接続 [2]、変数の技術名称 `DT_IH`、および日付値 `20120715` が特定されています。

```
&lsI[2]DT_IH=20120715
```

6.3.3 lsM[NAME] - 複数の値変数

`lsM` パラメータにより、階層ノードで複数の値および複合プロンプトを使用できます。

構文	説明	値
<code>lsM[NAME]</code>	プロンプトの複数の値を指定します。 [NAME] はプロンプトのテキストです。	<ul style="list-style-type: none">Web Intelligence: セミコロン (;) を使用して、複数のプロンプト値を区切ります。Crystal Reports: カンマ (,) を使用して、複数のプロンプト値を区切ります。<code>no_value</code> (オプションパラメータにのみ使用)

① 注記

プロンプトからオプションパラメータを削除するには、`openDocument` クエリ文字列でこのパラメータを `no_value` に設定します。オプションパラメータを `openDocument` クエリ文字列から削除すると、デフォルトのパラメータ値が適用されます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp  
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI  
&sIDType=CUID  
&sRefresh=Y  
&lsMSelect+Cities=[Paris],[London]
```

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?  
iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI  
&sIDType=CUID  
&sRefresh=Y  
&lsMparamStringDR=c,d  
&lsMparamNumberDR=3,4  
&lsMparamDateDR=[Date(2003,6,3)],[Date(2003,6,4)]  
&lsMparamDateTimeDR=[DateTime(2003,6,1,3,1,1)],[DateTime(2003,6,1,4,1,1)]
```

関連情報

[lsM\[NAME\] - 複数の値変数 \[33 ページ\]](#)

[lsM\[NAME\] - 複数値回答 \[45 ページ\]](#)

6.3.4 lsR[NAME] - 範囲プロンプト

SAP BW および SAP HANA プロンプトでは、lsR パラメータにより範囲を指定できます。

構文	説明	値
lsR[NAME]	プロンプトの範囲値を指定します。 [NAME] はプロンプトのテキストです。	<ul style="list-style-type: none">2つのピリオド (..) で示されるプロンプトの範囲値。no_value (オプションパラメータにのみ使用)

① 注記

プロンプトからオプションパラメータを削除するには、openDocument クエリ文字列でこのパラメータを no_value に設定します。オプションパラメータを openDocument クエリ文字列から削除すると、デフォルトのパラメータ値が適用されます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sRefresh=Y
&lsRTime+Period:=[2000..2004)
```

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sRefresh=Y
&lsRparamStringDR=[h..i]
&lsRparamNumberDR=[7..8]
&lsRparamCurrencyDR=[3..4]
&lsRparamDateDR=[Date(2003,6,7)..Date(2003,6,8)]
&lsRparamDateTimeDR=[DateTime(2003,6,1,7,1,1)..DateTime(2003,6,1,8,1,1)]
&lsRparamTimeDR=[Time(1,1,7)..Time(1,1,8)]
&lsRparamUnbound1=(..6)
&lsRparamUnbound2=[6..)
&lsRparamStringR=[a..d]
&lsRparamNumberR=[1..3]
&lsRparamCurrencyR=[1..3]
&lsRparamDateR=[Date(2003,6,1)..Date(2003,6,3)]
&lsRparamDateTimeR=[DateTime(2003,6,1,1,1,1)..DateTime(2003,6,1,3,1,1)]
&lsRparamTimeR=[Time(1,1,1)..Time(3,1,1)]
```

6.3.5 lsS[NAME] - 単一プロンプト

構文	説明	値
lsS[NAME]	単一プロンプトの値を指定します。 [NAME] はプロンプトのテキストです。	<ul style="list-style-type: none">1つのプロンプト値。no_value (オプションパラメータにのみ使用)

① 注記

プロンプトからオプションパラメータを削除するには、OpenDocument URL でこのパラメータを no_value に設定します。オプションパラメータを OpenDocument URL から削除すると、デフォルトのパラメータ値が適用されます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opensdoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sRefresh=Y
&lsSparamString=h
&lsSparamNumber=1
&lsSparamCurrency=121
&lsSparamDate=Date(2003,6,11)
&lsSparamDateTime=DateTime(2003,6,11,14,38,37)
&lsSparamBoolean=false
&lsSparamTime=Time(12,39,2)&lsSparamStringDR=a
&lsSparamDateDR=Date(2003,6,1)
```

6.3.6 sRefresh

構文	説明	値
sRefresh	ターゲットドキュメントを開いたときにデータベースを強制的に最新表示するかどうかを示します。	<ul style="list-style-type: none">YN (デフォルト値)

一部のドキュメントには、ビューアでドキュメントを開いたときにデータベースの最新表示を行う必要があることを示す設定が保存されていることがあります。これらのドキュメント設定は、sRefresh=N より優先します。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sRefresh=Y
```

6.3.7 sReportName

構文	説明	値
sReportName	ターゲットドキュメントに複数のレポートが含まれる場合に、開くレポートを指定します。	Web Intelligence ドキュメントのレポート名および A-OLAP Intelligence レポートのレポート名

① 注記

このパラメータを指定しないと、デフォルトで最初のレポートに設定されます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sReportName=First+Report+Tab
```

6.4 出力パラメータ

6.4.1 NAII

NAII 出力パラメータは、Web Intelligence 固有です。Y または N フラグを渡してプロンプト選択ページを表示できます。

構文	説明	値
NAII	値が指定されていない必須プロンプトのみについて、プロンプト選択ページを表示するかどうかを示します。	<ul style="list-style-type: none"> A: 必須とオプションの両方のプロンプトを表示 (Web クライアント専用) Y (URL で lsS、lsM、または lsR を含めて渡されたプロンプト値が適用され、[プロンプト] ダイアログに表示されません)

① 注記

- NAII=Y は、URL 内で指定されていない値に対して [プロンプト] ダイアログを実行します。デフォルト値で作成されたプロンプトは、[プロンプト] ダイアログに表示されたままになります。
- すべてのプロンプト値が URL 内に指定されている場合、NAII=Y が指定されてもプロンプトウィンドウは表示されません。

例

クエリに Year (必須)、Quarter (必須)、Country (任意) の 3 つのプロンプトがあるとします。Year に設定値があり、NAII パラメータを Nall=Y なしで渡すと、[プロンプト] ダイアログに 3 つすべてのオプションが表示されます。Year に設定値があり、NAII パラメータを Nall=Y ありで渡すと、[プロンプト] ダイアログに設定値なしの必須プロンプト (Quarter) のみが表示されます。

2 つ目の例では、Web Intelligence ドキュメントに Year と Country の 2 つのプロンプトがあることを想定しています。NAII=Y は、[プロンプト] ダイアログボックスを表示して、ユーザが Country プロンプトの値を指定できるようにします。Year プロンプトは、すでに URL で lsS パラメータを使用して FY1999 の値に設定されているので、入力を求められません。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&lsSYear=FY1999
&NAII=Y
&sRefresh=Y
```

6.4.2 sOutputFormat

構文	説明	値
sOutputFormat	ターゲットドキュメントを開く形式を指定します。	<ul style="list-style-type: none">• H (HTML)• P (PDF)• E (Microsoft Excel (XLSX))• XLS (Microsoft Excel (XLS) - Crystal Reports のみ)• W (リッチテキスト形式 (RTF) - Crystal Reports のみ)

① 注記

このパラメータを指定しないと、デフォルトで HTML に設定されます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?  
iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID&sOutputFormat=E
```

6.4.3 noDocument

構文	説明	値
noDocument	アプリケーションで、新しい空白のドキュメントを [デザイン] モードで開きます。	true

例

```
http://<server>:8080/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?  
iDocID=6471&noDocument=true
```

6.5 製品固有のパラメータまたは使用方法

6.5.1 Analysis, edition for OLAP

Analysis ドキュメントのベース URL の取得

Analysis では、[送信先 > ドキュメントリンク](#)を使用してドキュメントのベース URL を取得します。リンクが有効であることを確認するため、[リンク](#)フィールドの値を新しい Web ブラウザウィンドウにコピーすることができます。

Analysis Open Document URL の構築

URL で SAP BW 変数の値を指定するため、URL の末尾に以下の要素が追加されました。

- 指定する変数のタイプに対する適切な OpenDocument パラメータ
- BEx Query Designer で定義された変数の技術名
- 変数の値

技術名を確認できる場所

SAP BW 変数の技術名は、SAP NetWeaver Business Explorer Query Designer の "プロパティ" ペインで指定され、ビュー > 技術名設定を有効にし、選択したクエリの "変数順序" を表示すると表示されます。技術名はスペースが含まれず、大文字が使用されます (例: Z_SHPDATE)。表示名は、Shipment Date のようになります。

以下は、URL の末尾に変数 Z_VAR01 および日付値 20120619 のような技術名を追加した例です。

```
&lsSZ_VAR01==20120619
```

特殊文字の URL エンコード

① 注記

カンマやその他の特殊文字が含まれているため、リンクが機能しない可能性がある場合、URL をエンコードします。例

- `&lsC[1]Z_VAR06==1;[]5,20;![]10,15` が、以下のようにエンコードされます。
- `%26amp%3BlsC%5B1%5DZ_VAR06%3D%3D1%3B%5B%5D5%2C20%3B!%5B%5D10%2C15`

複数データ接続設定

複数の接続が定義され、それらを URL に含める必要がある場合、接続の表示順序を表すインデックス番号を使用して、変数名および値を関連付ける接続を識別することができます。

以下の例は、変数とその値のデータ接続インデックス番号および技術名を示す OpenDocument タグです。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?sIDType=CUID
&iDocID=<ID>
&lsS[1]Z_VAR01=COUNTRY_HIERARCHY_01
&lsS[1]Z_VAR04=EUROPE
&lsS[2]Z_VAR02=20111111
&lsS[2]Z_VAR03=SALES_HIERARCHY_03
&lsM[3]Z_VAR05=1,3,5
&lsC[4]Z_VAR06==1:[ ]5,20;![ ]10,15
```

インデックス番号によって、複数の接続が区別されています。これらの接続の表示順序は、Analysis のデータペインで表示できます。この例では、一覧にされた最初の接続が 1、次の接続が 2 のように識別されています。4 つ目の [4] 接続は、&lsC[4]Z_VAR06 で表示されています。

- 最初の接続 lsS[1] には、Z_VAR01 変数に適用される単一の COUNTRY_HIERARCHY_01 値と、Z_VAR04 変数に適用される単一の EUROPE 値が含まれます。
- 2 つ目の接続 lsS[2] には、Z_VAR02 変数に適用される単一日付値 2011, 11, 11 と、Z_VAR03 変数に適用される単一の SALES_HIERARCHY_03 値が含まれます。
- 3 つ目の接続 lsS[3] には、Z_VAR05 変数に関連付けられた複数の値 1、2、および 3 が含まれます。
- 4 つ目の接続 lsC[4] には、Z_VAR06 に適用される 1 などの複合変数と、5 から 20 までの範囲が含まれ、10 から 15 までの範囲内の値は除外されます。

OpenDoc 構文エラー

構文が正しくないと、通常は例にあるような変数の欠落、演算子、およびエンコードされていない特殊文字に関連するエラーが発生します。

OpenDocument 構文エラーの例	説明
OpenDoc syntax error. The value "<値>" for variable <変数名> does not contain sufficient information	このエラーは、複合変数タイプが不完全である場合 (かっこ "[" がない場合など) に生成されます。
OpenDoc syntax error. The value "<値>" for variable <変数名> does not contain a supported operation	このエラーは、複合変数タイプの演算子がサポートされている演算子 (" "[]" など) と一致しない場合に発生します。値が無効である場合、Analysis, edition for OLAP でエラープロンプトまたはダイアログボックスが表示されます。

Analysis, edition for OLAP で使用される Open Document タグ

① 注記

A-OLAP OpenDocument リンクの構築に使用されるタグには、以下が含まれます。

- [lsC\[NAME\] - 複合変数 \[30 ページ\]](#) (複合変数)
- [lsM\[NAME\] - 複数の値変数 \[31 ページ\]](#) (複数の値変数)
- [lsR\[NAME\] - 範囲変数 \[31 ページ\]](#) (範囲変数)
- [lsS\[NAME\] - 単一の値変数 \[32 ページ\]](#) (単一の値変数)

6.5.1.1 `lsC[NAME]` - 複合変数

下の例は、複合変数を含めるための `lsC` タグの標準的な使用方法を示しています。変数の技術名が、適切なパラメータとともに必要な書式で使用されます。

例: 日付変数の例

下の例は、日付変数 `z_VAR01` の技術名、等しい演算子 `==`、および年 (YYYY)、月 (MM)、日 (DD) 書式の数値日付値が提供されています。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?sIDType=CUID
&iDocID=AeGNibIUS.1Nmv45dz3jeP4
&lsCZ_VAR01==20120619
```

例: 除外する範囲およびデータを含む複数値

下の例では、最初の接続 [1] と複合変数名 `z_VAR06` が特定されています。範囲は 5 から 20 までで、10 から 15 までの範囲は除きます。セミicolonによって値が区切られます。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?
?sIDType=CUID
&iDocID=&<ID>
&lsC[1]Z_VAR06==1:[ ]5,20;![ ]10,15
```

① 注記

先行コードスニペットでは、それぞれの変数名および値をより分かりやすく示すため、各 OpenDocument パラメータがそれぞれの行で示されています。完全な URL は、1つの途切れのない文字列として構築してください。

下の表は、Analysis URL の `lsC` パラメータとともに使用できるさまざまな演算子を示しています。

構文	説明	例
<code>[]</code>	範囲内	<code>lsCZ_VAR01=[]5,10</code>
<code>![]</code>	範囲外	<code>lsCZ_VAR01=![]5,10</code>

構文	説明	例
=	等しい	lsCZ_VAR01==5
!=	等しくない	lsCZ_VAR01!=5
>	5 より大きい	lsCZ_VAR01=>5
<	5 未満	lsCZ_VAR01=<5
>=	5 以上	lsCZ_VAR01=>=5
<=	5 以下	lsCZ_VAR01=<=5

6.5.1.2 lsM[NAME] - 複数の値変数

単一データ接続の複数值パラメータの設定

ターゲットドキュメントが Analysis レポートである場合、lsM パラメータを使用して、カンマで区切られた複数の値を入力できます。一部のオペレーティングシステムでは URL 文字列にカンマが含まれていると問題が発生するため、URL エンコードが必要です。

渡されたパラメータでは、Analysis ワークスペースのデータソースで設定された一意の技術名が使用されます。

例: 営業階層に対する複数の変数の設定

この例は、複数の変数の指定方法を示しています。最初のデータ接続が使用され(&lsM の後の指定は不要)、変数の技術名 VAR_HN_S と 1 および 3 の値がカンマで区切られて後に続きます。分かりやすいよう、この例は URL エンコードなしで表示され、各 openDocument コンポーネントがそれぞれの行に表示されています。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?sIDType=CUID
&iDocID=<ID>
&lsMVAR_HN_S=1,3
```

6.5.1.3 lsR [NAME] - 範囲変数

ターゲットが Analysis レポートである場合、変数範囲と、各データ接続のインデックス番号 (複数ある場合) を指定できます。下の例は、データ接続と変数名、およびそれに続く範囲を示しています。

(分かりやすさのため、openDocument プリアンプルは省略されています)：

```
&lsR[2]VAR_20=2000..2009
```

[2] は接続インデックス番号の名前を指し (2 つの接続がある場合、この例の番号は Analysis クライアントの [データ](#) パネルに表示される 2 つ目の接続を指します)、VAR_20 は BEx Query Designer に表示されるフィールドの技術名であり (技術名は、使用できないユーザフレンドリな名前 Ship_date とは異なります)、2000..2009 は開始年と終了年の値である範囲です。

6.5.1.4 lss [NAME] - 単一の値変数

ターゲットが Analysis レポートである場合、lss パラメータを使用して変数の単一値を設定できます。lss パラメータは、以下の変数タイプに適用できます。

- 単一値
- 階層
- 階層ノード
- キー日付
- formula
- 通貨

詳細については、[lss\[NAME\] - 単一プロンプト \[24 ページ\]](#)パラメータリファレンスを参照してください。

例: 日付パラメータの設定

以下は、日付変数 ZCR_DT を 2011 年 8 月 3 日 20110803 に設定する例です。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/openDocument.jsp  
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI  
&SIDType=CUID  
&lssZCR_DT=20110803
```

例: 通貨パラメータの設定

この例では、通貨変数 Z_CUR_MD の値をユーロの技術名である EUR に設定しています。

```
&lssZ_CUR_MD=EUR
```

例: 階層および階層ノードの設定

この例では、階層ノード変数 Z_VAR013 をジャマイカの国のキーを表す値 34 に割り当てています。次の行では、階層変数 Z_VAR011 が "国階層 2" のキーである値 COUNTRY_HIERARCHY_02 に設定されています。

```
&lssZ_VAR013=34  
&lssZ_VAR011=COUNTRY_HIERARCHY_02
```


例: 複数の異なるパラメータタイプの設定

これは、長い URL の作成方法を示すため、複数の異なる単一変数タイプを使用した異なるデータコネクションの設定方法を示す例です。

① 注記

山かっこで囲まれたアイテムは、文字列に含まれないコメントです。これらは、示されている単一変数のタイプを示すためコードスニペットで表示されています。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&lsS[1]Z_VAR013=34
&lsS[1]Z_VAR011=COUNTRY_HIERARCHY_02
&lsS[2]Z_CUR_MD=EUR
&lsS[3]DT_IH=20100107
&lsS[4]Z_VAR05=1
&lsS[5]ZCR_DT=20110803
```

6.5.2 Crystal Reports

6.5.2.1 IsM[NAME] - 複数の値変数

Crystal レポート

ターゲットが Crystal レポートの場合、[NAME] はパラメータ名です。また、各パラメータ値を角かっこで囲み、複数のエントリを区切るための区切り文字としてカンマ(,)を使用する必要があります。

例: Crystal レポートのパラメータを設定する

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/openDocument.jsp
?iDocID=ASsonFDFQtVomHZZJTJuSo
&sIDType=CUID
&lsMSelectState=[Alberta],[Washington]
```

次の例では、SelectState という名前のパラメータを含む Crystal レポートを開き、パラメータの値を Alberta および Washington に設定します。

6.5.2.2 `lsR[NAME]` - 範囲プロンプト

Crystal レポート

ターゲットが Crystal レポートの場合、`[NAME]` はパラメータ名で、範囲を角かっこまたは丸かっこで囲む必要があります。範囲に含める値には角かっこ、含めない値には丸かっこを付けます。

6.5.2.3 `lsS[NAME]` - 単一プロンプト

Crystal レポート

ターゲットが Crystal レポートの場合、`[NAME]` はパラメータ名です。

例: Crystal レポートのパラメータを設定する

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/openDocument.jsp
?iDocID=ASsonFDFQtVomHZZJJtJuSo
&sIDType=CUID
&lsMSelectState=California
```

次の例は、`SelectState` という名前のパラメータを含む Crystal レポートを開き、パラメータの値を `California` に設定します。

6.5.2.4 `sPartContext`

構文	説明	値
<code>sPartContext</code>	レポートパーツのデータコンテキストを指定します。 <code>sReportPart</code> とともに使用します。	レポートパーツのデータコンテキストの名前。

① 注記

Crystal レポートでのみサポートされます。

① 注記

`sReportPart` の値が指定されている場合にのみ必須です。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sReportPart=Part1
&sPartContext=0-4-0
```

① 注記

sReportPart および sPartContext パラメータは、パーツビューア (sReportMode=Part) でのみサポートされています。

6.5.2.5 sReportMode

構文	説明	値
sReportMode	このリンクでターゲットの Crystal レポート全体を開くか、sReportPart で指定されたレポートパーツだけを開くかを示します。	<ul style="list-style-type: none">• Full• Part

① 注記

Crystal レポートでのみサポートされます。

① 注記

このパラメータを指定しないと、デフォルトで Full に設定されます。sReportPart の値が指定されている場合にのみ適用します。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sReportPart=Part1
&sReportMode=Part
```

6.5.2.6 sReportPart

構文	説明	値
sReportPart	開くターゲット Crystal レポートのパーツを指定します。	Crystal レポートパーツの名前。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID&sReportPart=Part1
```

sReportPart および sPartContext パラメータは、パーツビューア (sReportMode=Part) でのみサポートされています。

6.5.2.7 sViewer

構文	説明	値
sViewer	Crystal Reports では、選択したレポートビューアを指定します。 <div><p>① 注記</p><ul style="list-style-type: none">sViewer パラメータが設定されていない場合、BOE ユーザ設定で指定された Crystal レポートビューアが OpenDoc で使用されます。BW 上の Crystal Reports 2020 MDX ドライバは Fiori ビューアでサポートされていないため、HTML ビューアに戻ります。</div>	<ul style="list-style-type: none">fiori (Crystal Reports 2020 only)htmlpart (deprecated, use 'sReportMode=Part' instead)

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID&sViewer=html
```

6.5.2.8 sOutputFormat

構文	説明	値
sOutputFormat	ターゲットドキュメントを開く形式を指定します。	<ul style="list-style-type: none">• H (HTML)• P (PDF)• E (Microsoft Excel (XLSX))• XLS (Microsoft Excel (XLS) - Crystal Reports のみ)• W (リッチテキスト形式 (RTF) - Crystal Reports のみ)

① 注記

このパラメータを指定しないと、デフォルトで HTML に設定されます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?  
iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID&sOutputFormat=E
```

6.5.2.9 lang

構文	説明	値
lang	OpenDocument フレームワーク要素が表示される言語を定義します。	言語。en (英語) など

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp  
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI  
&sIDType=CUID  
&lang=en
```

① 注記

プロンプトテキスト、プロンプト値、レポートヘッダ、レポートデータまたは値など、レポート固有の要素はすべてブラウザ設定に基づいて表示され、URL パラメータでは定義されません。

これはクライアント固有の実装であり、指定しない場合、デフォルトのブラウザ設定になります。

6.5.2.10 pvl

構文	説明	値
pvl	Crystal Report OpenDocument の優先表示ロケールを設定します。	言語。たとえば、英語の場合は en です。

例

```
http://BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&pvl=en
```

① 注記

このパラメータは lang パラメータには依存しません。

必要に応じて、lang および pvl の各パラメータは同時にも個別にも使用することができます。

6.5.2.11 UI カスタマイズパラメータ

この機能を使用すると、ビジネス要件に合わせて Crystal レポートビューアをカスタマイズすることができます。

以下に示すように、OpenDoc URL にパラメータを追加することができます。

例: `http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=<Document-ID>&sIDType=CUID&sGroupTree=hide` では、グループツリー切り替えが非表示になります。

以下の表に、Crystal レポートビューアをカスタマイズするために使用可能なパラメータの一覧を示します。

パラメータの表

パラメータ	値	説明
sAllUIElements	hide	上部のツールバー、左側のパネル、およびステータスバーが非表示になるため、UI 要素なしでレポートを表示することができます。

パラメータ	値	説明
toolbar	hide	上部のツールバーが非表示になるため、左側のパネルおよびステータスバーをレポートともに表示することができます。
sLeftPanel	hide	DHTML ビューアの場合は、左パネル全体が非表示になります。Fiori ビューアの場合、ツールバー上の3つのサイドパネルボタンとサイドパネルがすべて非表示になります。
refresh	hide	ツールバーの[最新表示]が非表示になります。
export	hide	ツールバーの[エクスポート]が非表示になります。
print	hide	ツールバーの[印刷]が非表示になります。
favorite	hide	CR Fiori ビューアのみ。ツールバーの 気に入入り ボタンが非表示になります。
sGroupTree	hide	グループツリー 切り替えが非表示になります。
sSearch	hide	検索 切り替えが非表示になります。
sParameterPanel	hide	パラメータパネル 切り替えが非表示になります。
sDefaultPanel	searchPanel、parameterPanel、groupTreePanel	CR Fiori ビューアのみ。デフォルトでは、指定したサイドパネルが (CR Fiori ビューアの右側に) 開きます。 注: sGroupTree=hide、sSearch=hide、sParameterPanel=hide の優先度は sDefaultPanel の設定よりも高くなります。

6.5.3 Web Intelligence

6.5.3.1 sReportMode

構文	説明	値
sReportMode	Web Intelligence でのドキュメントの表示方法を定義します。	<ul style="list-style-type: none">• Full: 完全なインタフェースでドキュメントを開きます。• Light: 機能が制限された簡易インタフェースでドキュメントを開きます。直接アクション (ドリル、EL、折りたたみ/展開) およびコメントは引き続き利用できます。縮小ツールバーでは、レポートの変更、ページの変更、ズームレベルの変更なども行うことができます。• Part: ドキュメントの特定のレポートパーツを開きます。URL で sReportPart パラメータを使用してレポートパーツを指定してください。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sReportMode=full
```

6.5.3.2 sReportName

構文	説明	値
sReportName	ターゲットドキュメントに複数のレポートが含まれる場合に、開くレポートを指定します。	Web Intelligence ドキュメントのレポート名および A-OLAP Intelligence レポートのレポート名

① 注記

このパラメータを指定しないと、デフォルトで最初のレポートに設定されます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sReportName=First+Report+Tab
```

6.5.3.3 sReportPart

構文	説明	値
sReportPart	開くターゲット Web Intelligence レポートのパーツを指定します。レポートパーツは、チャート、テーブル、セクションセル、またはセクションインスタンスのいずれかです。	レポートパーツの名前。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sReportPart=Part1
```

① 注記

直接アクションおよびコメントは、sReportPart を使用する場合は利用できません。

6.5.3.4 sOutputFormat

構文	説明	値
sOutputFormat	ターゲットドキュメントを開く形式を指定します。	<ul style="list-style-type: none">H (読み取りモード)E (XLSX)P (PDF)

① 注記

- PDF と Excel の出力書式では、sReportName、sReportMode、および sReportPart の各パラメータはサポートされません。

- BI プラットフォームの 4.3 バージョンには、埋め込み PDF リーダはありません。PDF 出力を選択すると、ダウンロード可能な PDF が生成されます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sOutputFormat=H
```

6.5.3.5 sViewer

構文	説明	値
sViewer	選択されたレポートビューアを指定します。	fiori

① 注記

アプレットおよび DHTML クライアントが 4.3 で削除されたため、このパラメータは OpenDoc URL に影響を与えません。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sViewer=fiori
```

6.5.3.6 pvl

構文	説明	値
pvl	WebIntelligence OpenDocument の優先表示ロケールを設定します。	言語。たとえば、英語の場合は en です。

例

```
http://BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&pvl=en
```

① 注記

このパラメータは lang パラメータには依存しません。

必要に応じて、lang および pvl の各パラメータは同時に個別にも使用することができます。

6.5.3.7 lang

構文	説明	値
lang	OpenDocument フレームワーク要素が表示される言語を定義します。	言語。たとえば、英語の場合は en です。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&lang=en
```

① 注記

プロンプトテキスト、プロンプト値、レポートヘッダ、レポートデータまたは値など、レポート固有の要素はすべてブラウザ設定に基づいて表示され、URL パラメータでは定義されません。

これはクライアント固有の実装であり、指定しない場合、デフォルトのブラウザ設定になります。

6.5.3.8 noDocument

構文	説明	値
noDocument	アプリケーションで、新しい空白のドキュメントを [デザイン] モードで開きます。	true

例

```
http://<server>:8080/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?
iDocID=6471&noDocument=true
```

6.5.3.9 NAII

NAII 出力パラメータは、Web Intelligence 固有です。Y または N フラグを渡してプロンプト選択ページを表示できます。

構文	説明	値
NAII	値が指定されていない必須プロンプトのみについて、プロンプト選択ページを表示するかどうかを示します。	<ul style="list-style-type: none">A: 必須とオプションの両方のプロンプトを表示 (Web クライアント専用)Y (URL で lsS、lsM、または lsR を含めて渡されたプロンプト値が適用され、[プロンプト] ダイアログに表示されません)

① 注記

- NAII=Y は、URL 内で指定されていない値に対して [プロンプト] ダイアログを実行します。デフォルト値で作成されたプロンプトは、[プロンプト] ダイアログに表示されたままになります。
- すべてのプロンプト値が URL 内に指定されている場合、NAII=Y が指定されてもプロンプトウィンドウは表示されません。

例

クエリに Year (必須)、Quarter (必須)、Country (任意) の 3 つのプロンプトがあるとします。Year に設定値があり、NAII パラメータを Nall=Y なしで渡すと、[プロンプト] ダイアログに 3 つすべてのオプションが表示されます。Year に設定値があり、NAII パラメータを Nall=Y ありで渡すと、[プロンプト] ダイアログに設定値なしの必須プロンプト (Quarter) のみが表示されます。

2 つ目の例では、Web Intelligence ドキュメントに Year と Country の 2 つのプロンプトがあることを想定しています。NAII=Y は、[プロンプト] ダイアログボックスを表示して、ユーザが Country プロンプトの値を指定できるようにします。Year プロンプトは、すでに URL で lsS パラメータを使用して FY1999 の値に設定されているので、入力を求められません。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&lsSYear=FY1999
&NAII=Y
&sRefresh=Y
```

6.5.3.10 lsS[NAME] - 単一の値

構文	説明	値
lsS[Name]=[Value]	プロンプトの単一の値を指定します。 [Name] はプロンプトのテキストです。	[Value] はプロンプトへの回答です。

文字 ? は、OpenDocument URL の Web Intelligence ドキュメントに対するプロンプト値として予約されています。URL でプロンプト値を lsS[NAME]=? に設定すると、そのプロンプトに対する [プロンプト](#) ダイアログが表示されます。

SAP BW については、[Name] は変数の技術名、[Value] は値のキーです。Web Intelligence ドキュメントで OpenDoc URL を使用し、プロンプトに回答するためにオブジェクトの値を渡す際、プロンプトが SAP BW 変数またはインデックス認識を持つオブジェクトに基づいている場合は、.key 接尾語を使用するようにしてください。以下はその例です。

```
&lsSCountry=[Country].key
```

例

```
openDocument.jsp?  
sIDType=CUID&iDocID=FpapfgC4gQwADwEAAAA3QCQCclisFA7J&sRefresh=Y&lsSYear=FY94
```

6.5.3.11 lsM[NAME] - 複数值回答

構文	説明	値
lsM[Name]=[Value1]; [Value2];...	プロンプトの複数值を指定します。 [Name] はプロンプトを識別します。	[Value1], [Value2], ... はプロ ンプトへの回答です。

文字 ? は、OpenDocument URL の Web Intelligence ドキュメントに対するプロンプト値として予約されています。URL でプロンプト値を lsM[Name]=? に設定すると、そのプロンプトに対する [プロンプト](#) ダイアログが表示されます。複数のエントリを区切るための区切り文字として、セミコロン (;) を使用する必要があります。

SAP BW については、[Name] は変数の技術名、[Value1]、[Value2] は値のキーです。Web Intelligence ドキュメントで OpenDoc URL を使用し、プロンプトに回答するためにオブジェクトの値を渡す際、プロンプトが SAP BW 変数またはインデックス認識のオブジェクトに基づいている場合は、.key 接尾語を使用する必要があります。例:

```
&lsMCountry=[Country1].key;[Country2].key
```

例

```
openDocument.jsp?  
sIDType=CUID&iDocID=FpapfgC4gQwADwEAAA3QCQCCLisFA7J&sRefresh=Y&lsMYear=FY94;FY95
```

6.5.3.12 lsM[Name] - 複合値の回答

SAP BW および SAP HANA では、lsM は、複数値だけでなく複合値に回答するためにも使用できます (前のページを参照)。

構文	説明	値
lsM[Name]=[Value]	等しい	[Value] は等しい演算子のオペランドです。例: lsMLevel=20
lsM[Name]!= [Value]	等しくない	[Value] は等しくない演算子のオペランドです。例: lsMLevel!=45
lsM[Name]=[Value1] - [Value2]	間隔の間	[Value1] と [Value2] は、範囲演算子の範囲制限です。例: lsMLevel=20 - 50
lsM[Name]!= [Value1] - [Value2]	範囲外	[Value1] と [Value2] は、範囲外演算子の範囲制限です。例: lsMLevel!=20 - 50
lsM[Name]=> [Value]	より大きい	[Value] はより大きい演算子のオペランドです。例: lsMLevel=>20
lsM[Name]=< [Value]	より小さい	[Value] はより小さい演算子のオペランドです。例: lsMLevel=<50
lsM[Name]=>= [Value]	以上	[Value] は以上演算子のオペランドです。例: lsMLevel=>=20
lsM[Name]=<= [Value]	以下	[Value] は以下演算子のオペランドです。例: lsMLevel=<=50

セミコロン (;) を使用して異なる演算子を集約できます。以下はその例です。

```
&lsMLevel=20;21;22;>12;<=50;!45
```

SAP BW については、[Name] は変数の技術名、[Value] は値のキーです。

6.5.3.13 `lsI[NAME]` - インデックス

構文	説明	値
<code>lsI[Name]=[Index]</code>	SAP BW またはアグリゲート認識のオブジェクトに基づいた変数のインデックスを指定します。[Name] はプロンプトを識別します。	[Index] はプロンプトへの回答のインデックスです。

SAP BW については、[Name] は変数の技術名、[Index] は値のキーです。Web Intelligence ドキュメントで OpenDoc URL を使用し、プロンプトに回答するためにオブジェクトの値を渡す際、プロンプトが SAP BW 変数またはインデックスのオブジェクトに基づいている場合は、.key 接尾語を使用するようにしてください。例:

```
&lsICountry=[Country].key
```

6.5.3.14 `cp[NAME]` - カスタムプロパティ値

構文	説明	値
<code>cp[Name]=[Value]</code>	ドキュメントのカスタムプロパティの値を指定します。カスタムプロパティが存在しない場合は、作成されます。	[Value] は、カスタムプロパティに設定する値です。

URL アドレスと混同される可能性のある文字はエスケープする必要があります。

例:

- `&cpCountry=France`
値が "France" であるドキュメントのカスタムプロパティ "Country" を作成します。
- `&cpMusic%3F=Rock%26Roll`
値が "Rock&Roll" であるドキュメントのカスタムプロパティ "Music?" を作成します。

関連情報

[CustomPropertyValue](#)

[CustomProperties](#)

6.5.4 Design Studio

6.5.4.1 lang

構文	説明	値
lang	OpenDocument フレームワーク要素が表示される言語を定義します。	言語。en (英語) など

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&lang=en
```

① 注記

プロンプトテキスト、プロンプト値、レポートヘッダ、レポートデータまたは値など、レポート固有の要素はすべてブラウザ設定に基づいて表示され、URL パラメータでは定義されません。

これはクライアント固有の実装であり、指定しない場合、デフォルトのブラウザ設定になります。

6.5.5 eView と情報スペース

6.5.5.1 eView

eView ドキュメントのベース URL の取得

セントラル管理コンソール (CMC) で [フォルダ > オブジェクト一覧](#) を表示し、[タイプ](#) 列フィルタを設定して [Explorer ビューセット](#) ドキュメントを表示し、適切な [Explorer ビューセット](#) ドキュメントに移動します。ドキュメントを右クリックし、[プロパティ](#) を選択してから、23 文字の [CUID](#) 値をコピーします。

下の書式でリンクを作成してこのベース URL が機能するかどうかをテストしてから、Web ブラウザのアドレスバーにリンクを貼り付けます。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?sIDType=CUID
&iDocID=Ac4WR2LgKMPtqEc_npw_Nk
&mode=album
```


① 注記

最終的な URL に改行を含めることはできません。サンプルコードスニペットでは、パラメータをより分かりやすく区切るために改行が使用されています。

eView Open Document URL の構築

ビューをフィルタリングするには、ダイナミック URL パラメータを使用した情報スペースのカスタマイズに記載されている構文を使用してパラメータを追加する必要があります。

上記のベース URL の例を使用して Europe および EEMEA のみが表示される Region のフィルタを追加し、パラメータ fans (ファセットとファセット値の並べ替え済みリストのパラメータ) および区切り文字 _]_ を使用すると、以下のようになります。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp  
?sIDType=CUID  
&iDocID=Ac4WR2LgKMpPtqEc_npw_Nk  
&fans=Region_:_Europe_]_EEME
```

特殊文字の URL エンコード

① 注記



スペース、カンマまたはその他の特殊文字が含まれているため、リンクが機能しない可能性がある場合、URL をエンコードします。例

- &fans=Region_:_Europe_]_EEME をエンコードすると、以下のようになります。
- %26amp%3Bfans%3DRegion_%3A_Europe_%5D_EEME

重要免責事項および法的情報

ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
 - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
 - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームに置かれている場合があります。SAP では、これらのプラットフォームに保存されているビデオが将来にわたって利用できると保証することはできません。また、これらのプラットフォームにホストされている、いかなる広告またはその他のコンテンツ (関連ビデオまたは同じサイトでホストされている別のビデオに移動する場合など) については、SAP の管理外であり責任を負いません。

ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

偏見のない表現

SAP は、ダイバーシティ & インクルージョンの文化を支持しています。SAP の文書では、可能な限り、文化、民族性、ジェンダー、および障がいの有無を問わず、すべての人々に対する偏見を伴わない表現を採用します。

© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱漏等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。